

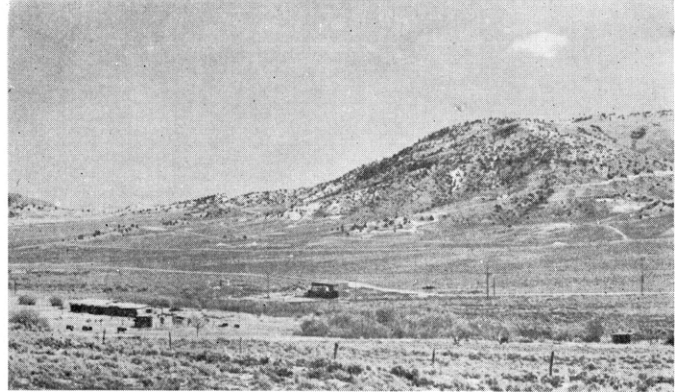
アメリカのウランを尋ねて (第1報)

地質調査所鉱床部の浜地忠男技官は アメリカ合衆国
における核原料資源探査の研究のため 去る9月28日東

京発空路アメリカへ出発した。

同技官はワシントンアメリカ合衆国地質調査所をはじめ デンバーの地質調査所支所やユタ・コロラド・アリゾナ・テキサスなど各州のウラン鉱床地帯を視察し 新しいウラン鉱床探査方法の研究を行い 33年7月帰国の予定である。

下掲の写真は同技官からのアメリカ便り第1報である。



↑ Seismic Mine, Crooks Gap の露天掘
Wasatch Formation (Eocene) 中の Co-arsearcorse s.s. 中に胚胎するウラン鉱床
で鉱物は Autunite, Phosphuranlyite, などの
二次鉱物の他 Uraninite を少量産出する
地表から鉱床までの深さ約 20m で
あるが 機械力により露天掘を行っている

Seismic Mine, Crooks Gap の堅坑

現在 70m の深度まで掘られており 上の写真
の北方約 300m にある 深部の鉱床開
↓ 発のための準備作業中



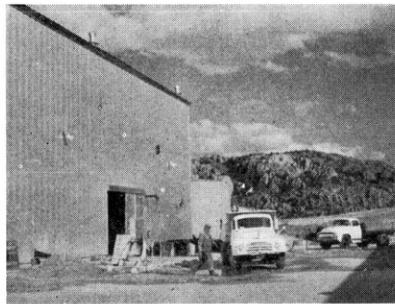
Crooks Gap 地方 U-鉱床 ↑
地区の西側から見た地形

Seismic Mine は左側の山嶺の一番低い
所の東側で一部白く見えているのは
「ズリ」である この鉱山を北端として
既に採掘済みの鉱床が南方約 1.5km の
地点まである この地区の鉱山として
は Seismic Mine の他 Helen May Mine,
Sno-Ball Mine 等がある 興味深いのは
ほぼ南北に直線に配列していることである

↘ 自動車の屋根の上にシンチレーション
・ヘッドをつけている 原子力委員会の
Lawling 駐在所の Dr. Daniel M. ater
が1人で運転操作して May bell 地区の
調査をしている (写真中央は浜地技官)

選鉱場の内部

溶液中の U を合成樹脂の粉末で吸着さ
↓ せて精製している



↑
Crooks Gap の北方にある
Western Nuclear Corporation
の選鉱場の一部

ここでウラン鉱石が数々の
操作を経て yellow cake
が作られ コロラド州のグ
ランドジャンクションに
ある原子力委員会へおくら
れる処理能力 0.2% U₃O₈ 400t/日

